



指宿の菜の花



「安藤忠雄展 青春」

私の建築の青春をよみがえらせた安藤忠雄、彼がシベリア鉄道で憧れの建築家ル・コルビュジェに会いにヨーロッパに向かったのは1965年、私が同じくル・コルビュジェの代表作ロンシャンの教会（世界遺産）を自分の目で見たいと思ってヨーロッパに行ったのは1976年、日本が1955年から1973年の高度経済成長期の時代です。

今回、彼が設計監修した「グラングリーン大阪」の中にある文化施設「VS」で開催された「安藤忠雄展 青春」に行ってきました。八十三歳とは思えないエネルギッシュで「まだまだ生きてやるぞー」という言葉には感銘を受けました。安藤忠雄氏の作品については「たてもの見聞録」で紹介させていただきます。

もう御一方、百一歳とは思えない人を紹介させていただきます。昨年の五月にシンガポールでのロータリークラブ世界大会で出会い、妻たちと一緒に踊られた千玄室（裏千家前家元）大宗匠です。晩餐会で音楽が奏でられると真っ先に一人、舞台の前で曲に合わせ踊られる姿にはびっくりしました。彼が日曜コラムで「文明の衝突」という本を紹介し、私たちに問いかけられていました。それは、英国の歴史学であったトインビー博士が「自国の歴史や自国のことを知らぬ民族は滅びる」といった教えは今の世相でも生きている。「世界の人々が、もっとお互いの民族の歴史や伝統を理解し合わねばならない。そのためにも自国のことを知る必要があるのだ。また日本人は古来より情の心をもって、上に立つものも決してみじんも覇権主義など持たない心を養って政策を行っていた。」そして締めくくりに、皆で努力して素晴らしい国を次世代にバトンタッチしたい。と書かれていました。まさに、自国の歴史を学び、自分を顧み、「まだまだ生きてやるぞー」と言って、私の夢に再挑戦したくなった一日でした。

三月二十五日

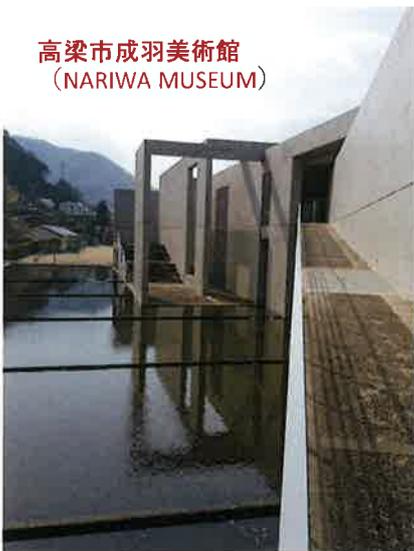
(株)ウイズアート

代表取締役

伊藤 弘幸

たてもの見聞録

～ 安藤忠雄の世界 Part.1 ～

高梁市成羽美術館
(NARIWA MUSEUM)

安藤忠雄、彼の作品で印象深いのは岡山県の高梁市成羽美術館です。家族で行って、彼のコンクリート打ち放し。水、スロープがこんなに素晴らしく、一つの作品として残る建築は本当に「凄い」と思った作品です。「こども本の森」については、彼の自伝に「建築という専門の勉強をしていないので必死に本を読んだ。」と書かれていました。本や子供にとっても思い入れがあるのでしょうか。自らの費用で設計、建設して地方自治体に寄付するそうです。海外や全国に寄付している彼の想いにただただ感動を覚えます。彼の代表作の一部を写真でご紹介しますので、ぜひ一度彼の作品に接してみてください。(H.I)



サミュエル・ウルマンは「青春」の詩の中で青春とは人生のある期間ではない、心のありようなのだ、と謳いました。失敗を恐れることなく困難な現実に向かう挑戦心、どんな逆境にあろうとも、夢をあきらめない心の逞しさ。身体・知性がいかに年を重ね、成熟しようとも、この内なる若さを失わなければ、人は老いることなく生きられるというのです。いつまでも輝きを失わない、永遠の青春へー



目指すは甘く実った赤いリンゴではない、未熟ですっぽくとも明日への希望に満ち溢れた青りんごの精神です。

建築家 安藤 忠雄

～～社内研修旅行 in 鹿児島～～

指宿市～長崎鼻・竜宮神社・砂むし温泉「白水館」～



長崎鼻



たまで箱乗車



開聞岳



竜宮神社



白水館



伝承館



西大山駅

コロナ明け5年ぶりの社内研修旅行へ行ってきました。砂風呂と温泉でゆっくりし、1泊2日の癒し旅行となりました。

鹿児島市内観光～西郷隆盛像・城山公園・仙巖園～

桜島<仙巖園にて>



桜島の誕生は今から約2万6000年前。大規模な噴火を17回繰り返し、現在の姿となりました。桜島の歴史は噴火の歴史とも言われ、大正3年の大噴火では、大量の溶岩の流出により、もともと島だった桜島と大隅半島が陸続きになりました。現在も活動をしている活火山で約5,000人の市民が火山と共存しています。

<仙巖園 御殿>

仙巖園の御殿は万治元年(1658)島津家19代光久によって建てられ、数百年の歴史の中で、建て直しや増改築が行われました。島津家歴代がこよなく愛し、幕末以降は国内外の賓客をもてなす施設として用いられました。和の趣の中にたたくむ風水を取り入れた作庭や西洋風の調度品を通して公爵島津家の暮らしぶりを今に伝えています。



池の中には八角形のくぼみがあり、「八卦」を表現したものです



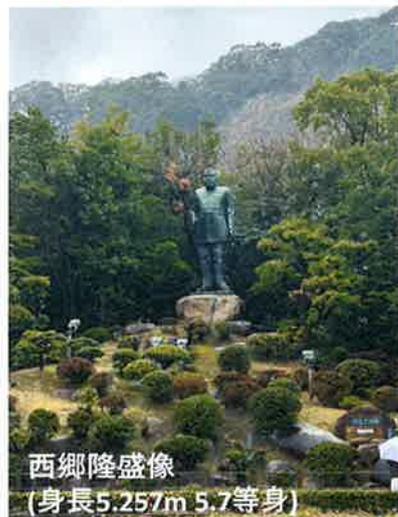
謁見の間



欄間



鶴灯籠



西郷隆盛像
(身長5.257m 5.7等身)

鹿児島県出身の安藤照作により1937年(昭和12年)に建てられました。昭和3年に東郷平八郎から依頼を受けた安藤が、約9年近くの歳月をかけ制作。西郷の体系を調べたり日本やヨーロッパの各地の銅像や庭園を見て回るなど調査に十分な時間をかけた。未来を見据えるような正面向きの顔、揺るぎない不動の立ち姿の西郷隆盛像は市井の人々の精神的な拠所として確固たる存在を示している。



針を隠すための「針隠し」廊下や部屋によってデザインが異なり、11種類の釘隠しがありました。



今まで彼の作品は、コンクリート打ち放し、ブリッジ、階段、光、水をモチーフとしてどの場所でも同じ作品を創っているのではと思っていました。が、この「ブルス・ドウ・コメルス」を建築誌で見たとき私の思いは間違っていることに気が付きました。彼は彼の目指す理想の環境に思いを巡らし、その環境を風景ととらえ、建築とランドスケープの一体化を創造しているのではないかと考えました。彼のような人々がこれからの世界を創造してほしいなとつくづくそう思います。(H.I)



パリ中心部に建つ歴史的建造物「ブルス・ドウ・コメルス」を現代美術館として再生した計画。18世紀後半に建てられ、19世紀末の改修によって現在のかたちとなる。壁に刻まれた歴史に敬意を払いつつ、「建築の中にもうひとつの建築をつくる」新旧入れ子構造をもって内部空間の刷新を試みた。(2016-2021)



六甲の集合住宅 I

六甲山の山麓、岩盤の傾斜地に建てられている。各ユニットは全部前に庭を持ち、内部空間構成も面積も全く異なる表情を持つ35戸の集合住宅。安藤氏としてはそのテラスを生かして生活をしてほしいという思いがあったが当時の日本人にはなじめなかったようだ。阪神淡路大震災から1週間後に安藤氏が訪れたとき、ほとんどクラックもなく、建物内の家具が倒れたり、絵がはずれるということもなかったそうです。今回訪れた時も、それは見事にきれいなコンクリート打ち放しの建物の姿でした。(1983-1978)



1995年に発生した阪神淡路大震災の文化の復興シンボルとして建てられ、2002年4月に開館。2019年には安藤氏からの建物の寄贈、展示物の寄託により Ando Gallery を館内にオープン。安藤氏は中国にも数多くの素晴らしい建物を建てている影響か、中国から若い世代の人たちが多く訪れていた。

～ ウイズアートの現場から ～

教育施設



外観



ターミナル棟



3階エレベーター前



屋根・外壁・外構周りを改修

【近畿大学工学部C館北側エレベーター棟増築工事】～東広島市～（伊藤敬）

【田中学習会廿日市校新設工事】～廿日市市～（竹本）

【西濃運輸(株)東広島営業所リノベーション工事】～東広島市～（伊藤）

リフォーム



【Tアパート改修工事】～安芸区～（丸口）
2戸の部屋を3DKから2LDKへ。2DKから1LDKへ改修工事を行いました。

【N様邸改修2期工事】
～中区～（丸口）

事務所



【(株)S会議室補修工事】
～安芸区～（竹本）

テナント



【ラグナヴェールクロス貼替工事】
～中区～（竹本）

外構



【(株)K塀改修工事】
～安芸区～（竹本）

外構



【(株)I門扉改修工事】～安芸区～（伊藤敬）

4月1日より、新入社員が1名入社いたします。若い力に乞うご期待!!!



総合建設業・一級建築士事務所・宅地建物取引業

ウイズアート
-Uizu-Art-

広島市中区竹屋町1-17 TEL.082-247-0082